

賞 会 長 会 連 合 組 合 貯 蓄 納 税 畿 近



受け継ぐ想い

和歌山県立古佐田丘中学校 三年 山本 志乃

一九三七年に建てられた、南北に続く八十九メートルの廊下がある築八十八年の木造平屋建て、三千五百平方メートルを超える大規模な校舎は、十五センチ角のヒノキの柱が八百本も使われ、筋交や方杖を多用し、耐震耐風への工夫がなされた歴史的価値の高い建造物だ。二〇十四年には国の重要文化財に指定され、今年度開校百五十周年を迎える、高野口小学校。それが私の母校だ。

古佐田丘中学校に進学し、校舎は鉄筋コンクリート造の四階建てになった。小学校が大規模な平屋だったため、最初は校内に階段があることや別棟があることすら新鮮だった。しかし中学生生活に慣れるうちに記憶も薄れ、小学校のことを思い出すこともほとんどなくなった。そんなとき、妹から今年度で百五十周年を迎えることを聞いて、ふとあの六年間を過ごした木造校舎を思い出した。

趣のある外観や、高い天井から吊るされた廊下の白熱電灯、木枠のガラス窓に、出入り口の木製建具。トイレは全て洋式便器が備えつけられ、校舎はバリアフリー。築八十八年を迎えるというのに中身は新しく、よく手入れされていた。改めて思い出してみると、とても珍しく、良い学校だったなと思った。

気になって調べてみると、建築費用の半分以上は、当時の地元の有力者や住民の寄付で賄われたそう。驚いていると、それを維持しているのは、みんなが納めた税金なのだ、と母が教えてくれた。平成二十三年に完了した高野口小学校の改修・改築工事の費用はおよそ六億六千三百万円。これらは通常、市町村や都道府県の予算、国の補助金から捻出されるのだ。その財源は私たちの納めた税金。だから税金は大変だけど、大切なものなんだよ、と母は言った。

更に小学校が国の重要文化財に登録されたため、その修理などには国庫補助金が交付されるようになった。昔の高野口町の人々が力を合わせて建てた小学校を、この先の未来に繋げていくために、多くの税金が使われていたことがわかった。私たちがあの素晴らしい小学校で過ごせたのは、たくさんの人々の支えがあったからだ。今回、税の勉強をすることで、高野口町の昔の人々と今の人々のつながりを感じ、それに気付くことができてよかったなと思った。

税金は、私たちにはあまり関係がないと思っていた。何に使われているかわからなかった。しかし調べてみると、みんなが納めてくれた税金で、教室にエアコンが設置されたり、タブレット端末を貸与してくれたり、身近なところにも多くの税金が使われていることがわかった。

私たちが安心して勉強できるように、大人たちが守ってくれているんだということを知った今、私も大人になって働くようになったら、きちんと税金を納めようと思う。